



## YES-Japan レター：2023 年度活動報告



YES-Japan は 2019 年に国際抗てんかん連盟と日本てんかん学会の承認を受け、正式に発足した、若手てんかん従事者による組織です。簡単ではございますが、こちらに、2023 年度の YES-Japan 活動報告をさせていただきます。

### 【YES-Japan workshop】

2023 年 7 月 1-2 日に、初となる合宿形式の YES-Japan ワークショップ（スローガン：ここで  
見つける一生の仲間）を横浜で、三橋匠(順天堂大学医学部附属順天堂医院脳神経外科)と佐久間美帆(東京都立墨東病院脳神経内科)を大会長として行いました。若手てんかん従事者を対象とした本ワークショップには、**合計 36 名が参加**し、その内訳は、医師 17 名(小児科 4 名、精神科 3 名、脳神経外科 5 名、脳神経内科 5 名)、初期研修医 2 名、医学部学生 4 名、看護師 3 名、公認心理師 2 名、心理学部大学院生・学部生 3 名、脳波技師 2 名、作業療法士 2 名、その他学部学生 1 名でした。ワークショップでは、初学者がてんかん学について事前に勉強し、当日に登壇しレクチャーする「超高速！てんかんレクチャー」や、様々な失敗から学ぶ「てんかんしくじり先生」、共通の悩みを持つもの同士で相談する「てんかんお悩み相談室」などを行いました。また、本ワークショップでの研究に関するディスカッションに先駆けて、研究経験の無い大学生(学部生)を対象として、事前学習会として、半日間の研究に関するレクチャーとディスカッションを行いました。



## 【第56回日本てんかん学会学術集会】

2023年10月19-21日に新宿で行われた、第56回日本てんかん学会学術集会において、YES-Japan から久保田隆文(東北大学病院てんかん科)と細山浩史(鹿児島市立病院脳神経外科)がプログラム委員として選出され、2つのセッションを企画・運営致しました。

「YES-Japan/YES-Asia-Oceania Collaborative Session」では、竹内博一(埼玉小児医療センター神経科)、岸本百合(天久台病院)を座長として、日本に留学した経験を持つ海外のてんかん従事者を招待し、日本への留学で学んだことやなぜ日本を留学先に選んだのか、そして現在のキャリアに日本での留学がどのように活かしているかを登壇していただき、討論しました。

「明日から役立つ実践てんかん診療」では、佐久間美帆(東京都立墨東病院脳神経内科)と細山浩史(鹿児島市立病院脳神経外科)を座長として、実際の診療現場を想定した診療ロールプレイを、各診療科/職種グループに分かれて参加者が行い、エキスパートからフィードバックを頂きました。

またこれらに加えて、初の試みとなる、YES-Japan award を開催し、若手のポスター発表者を対象として、YES-Japan メンバーが公正な評価を行い、4名の受賞者が選ばれました。



## 【Epilepsy & Seizure への論文投稿】

YES-Japan では、メンバーによる輪番制での Epilepsy & Seizure(日本てんかん学会英文誌)への論文投稿を行っております。2023 年度に出版された論文と筆頭著者は下記のとおりです。

三橋匠(順天堂大学医学部附属順天堂医院脳神経外科)

[Stereoelectroencephalography is useful for detecting the spatiotemporal dynamics of auditory naming-related high-gamma modulations](#)

小玉聡(東京大学神経内科)

[Management of elderly-onset epilepsy: A narrative review](#)

## 【研究手法ハンズオン】

2024 年 2 月 22 日に YES-Japan メンバー内での研究に関する勉強会の一環として、久保田隆文(東北大学病院てんかん科)が、**メタアナリシスに関するハンズオンセミナー**を行いました。約 10 名がハンズオンに参加し、実際に、過去に出版したデータを共有し、R studio というソフトを用いて、実際に自分の PC にソフトをインストールして、同じ結果を出力できることを確認しました。

## 【JEPICA】

2024 年 3 月 2-3 日に徳島で行われた全国てんかんセンター協議会(JEPICA)において、「**YES-Japan 企画：若手による多職種間教育・多職種連携の取り組み**」と題したシンポジウムを企画・開催し、石橋はるか(東広島医療センター脳神経内科)、岸本百合(天久台病院)が座長として、若手同士における、同職種・多職種・多施設間での教育の重要性を議論しました。また、その中で、佐久間美帆(東京都立墨東病院脳神経内科)が、若手の多施設・多職種間による教育の重要性について登壇し、中倉真之(京都第一赤十字病院検査部)が、若手の同職種・多施設間による教育の重要性について登壇しました。また、ポスター会場において、石橋はるか(東広島医療センター脳神経内科)が、上記の YES-Japan workshop による参加者への効果に関する研究発表を行いました。

## 【論文執筆】

久保田隆文(東北大学病院てんかん科)、黒田直生人(東北大学てんかん学分野/ウェイン州立大学小児科)、小玉聡(東京大学神経内科)が、共同で論文” The prevalence of a false positive diagnosis of epilepsy: A meta-analysis”を執筆し、国際学術雑誌 *Seizure* に掲載されました。

井上令一(三沢米軍病院)、秋庭崇人(順天堂大学小児科)、久保田隆文(東北大学病院てんかん科)が共同で論文”Potential biases in the randomized control study of progressive muscle relaxation exercises for epilepsy”を執筆し、国際学術雑誌 *Seizure* に掲載されました。

## 【勉強会】

YES-Japan では、定期的に海外のてんかん研究者を招待し、登壇してもらう勉強会を開催しております。2023年4月には Dr. Ethan Firestone (Wayne State University)に” Intraoperative Localization of Epileptic Brain Regions Under Sevoflurane Anesthesia”について、Dr. Eleonora Tamilia(Harvard medical school/Boston Children’s Hospital)に” Revealing neurophysiological biomarkers of the epileptogenic zone from non-ictal data: Novel computational approaches”について登壇してもらいました。登壇後には英語でのインタラクティブなディスカッションを行い、海外のてんかん学研究者と交流を深めました。

## 【YES-ILAE/YES-AO】

2023年より、アジアオセアニアの YES(YES-AO)において、国際共同研究を行うプロジェクトが発足し、成人てんかんに関する研究トピックに関して、中神由香子(京都大学)がグループリーダーに選出されました。

また、2023年より、YES-ILAE において、黒田直生人(東北大学てんかん学分野/ウェイン州立大学小児科)が、Research and Translational Taskforce のリーダーに選ばれ、てんかん学における基礎/橋渡し研究に関する全7回の国際ウェビナーを運営しました。